

2024年3月24日（日）第二礼拝「一つになる」ヨハネ17章22節

神様が私たちに栄光を与えて油注いでくださるのは、私たちが一つとなるためです。

第一番目、イエス様の十字架にかかる直前の祈りです。イエス様の祈りは「父よ。時が来ました。あなたの子があなたの栄光を現すために、子の栄光を現してください。（ヨハネ17：1）」から始まります。「子の栄光」が現され、その栄光が私たちに与えられるのは、神様・イエス様・聖霊様が三位一体であるように、私たちも一つとなるためです。主の栄光とは主のいのちです。主の満ち溢れるいのちを私たちが豊かに持つようにと、「子の栄光」を私たちに与えてくださいました。主は良い羊飼いです。私たちがいのちを得、そのいのちが満ち溢れ、主の栄光に満たされて、私たちが一つとなること、これがイエス様の最後の祈りでした。この地に御国が臨んで主の栄光が現され、私たちが一つとなっていく時、ますます主の栄光が現され、栄光から栄光へと主の御体として私たちが更に一つとされていくと信じます。

第二番目、イエス様は父なる神様の呼び名(御名)を教えてくださいました。「天にいます私たちの父よ。御名があがめられますように。御国が来ますように。みこころが天で行われるように地でも行われますように。…」(マタイ6：9～) イエス様はいつも神様を「アバ」と呼んで神様と親密な関係を持っておられました。「アバ」とは、小さな子が父親を「パパ」と呼ぶ表現ですが、神様を「アバ」と呼ぶ関係性の中に彼ら(私たち)を保ってくださいるように、イエス様は祈られました。それはイエス様ご自身が神様と一つであったように、私たちもまた一つであるためです。私たちはイエス様の十字架によって罪赦され、神様の子どもとされました。それゆえ天地を創造された偉大な神様を私たちは「アバ」と呼ぶことができるのです。これはなんとという恵みでしょうか。「人を再び恐怖に陥れるような、奴隷の霊を受けたのではなく、子としてくださる御霊を受けたのです。私たちは御霊によって、『アバ、父』と呼びます。」(ローマ8：15)

第三番目、主の溢れるいのちを周りの人々に分かち合うことです。主の栄光が私たちに与えられたのは、私たちがいのちを得、その命は豊かに満ち溢れ、主の御体として、花嫁として一つとなるためですが、それだけにとどまりません。私たちの証を通して、主との親密な関係の中で溢れるいのちが周りの人々に流れていくことを、主は願っておられます。つまり、それは全世界の人々に福音が宣べ伝えられ、全ての人々がいのちを得るようになることです。この「いのちを得る」とは、父なる神様が御子イエス様を愛されたように、私たちも愛してくださるということを知ることです。イエス様は神様の御名とその親密な関係性を私たちに知らせてくださいました。それは、私たちが主のもとにとどまり、神様の栄光とその無条件の愛を見る(知る)ようになり、その愛の中に保たれ一つとされるためです。私たちにはイエス様の願いを行う力はありませんが、助け主である聖霊様が主との親密な関係へと私たちを導き、私たちを主の愛で一つとしてくださいます。イエス様の最後の願い、祈りは聖霊様によって私たちのうちに全うされるのです。アーメン！